



■柿田川
1日に約110万tの湧水量を誇る柿田川湧水群。希少な自然環境は、国指定天然記念物や日本の名水百選など、数多くの認定を受けています。

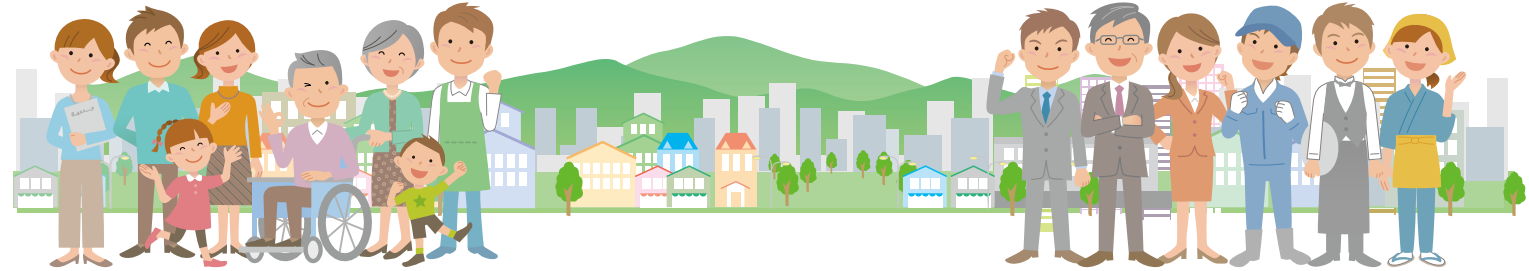


■丸池
丸池は湧水を田んぼで利用するために作られたため池です。周囲は公園として整備され、春には桜と富士山の美しい風景を楽しめます。



■本城山
柿田川と狩野川の合流点の南側に位置する本城山。標高76mの山頂には展望台が設置され、富士山をはじめ町全体が一望できます。

ともに作りましょう！ あなたの未来 清水町の未来

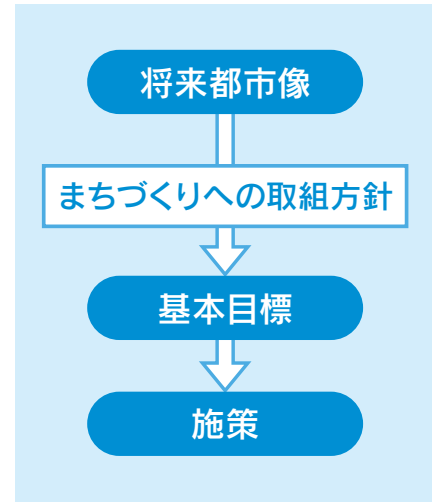


■第5次清水町総合計画とは

第5次清水町総合計画は、本町の最上位計画であり、今後10年間のまちづくりの指針となるものです。
人口減少と少子高齢化が進行する厳しい時代においても持続可能なまちづくりをすすめていくためには、長期的、総合的な視点で本町が目指すべきまちの姿とその実現の手段を明らかにし、行政だけではなく町民や事業

者など、関係者全員がそれを共有し、力を合わせて取り組んでいくことが重要です。
まちづくりの主人公は町民であり、まちを訪れる方々も大切な担い手です。第5次清水町総合計画は、本町の未来に向けてみんなが協働でまちづくりに取り組むための、新たな指針として策定しました。

■総合計画の骨子



第5次清水町総合計画は、以下を骨子に策定しました。この概要版では、それぞれの内容を紹介しています。

- 「将来都市像」
地域課題や社会環境変化を踏まえて、目指すべき10年後の清水町の姿を明らかにしました。
- 「まちづくりへの取組方針」
将来都市像の実現に向けたまちづくりをすすめるにあたっての、取組方針を定めたものです。
- 「基本目標」
将来都市像を実現するための、まちづくりの具体的な目標を設定したものです。
- 「施策」
それぞれの基本目標の達成に向けた具体的な取組内容です。これらに基づいて実際の事業をすすめていきます。

第5次清水町総合計画 概要版



くらしやすさで
未来をともにつくるまち
清水町

くらしやすさで未来をともにつくるまち 清水町

これまで培ってきた本町ならではの「くらしやすさ」を土台に、わたしたちみんながまちづくりに関わり、自分がもっと光り輝く未来を自由自在につくることができれば、本町にずっと住み続けたいくなるはずです。また、独自の魅力や産業が輝きを増せば、多くの人々が訪れ住んでみたくなるはずです。

清水町を、くらしやすさで未来をともにつくるまちへ。

受け継がれた「くらしやすさ」に一層の磨きをかけながら、わたしたち一人ひとりが思いおもいの未来を創造できるまちに。そして、独自の輝きが多くの人々を惹きつけ続けるまちに。わたしたちの愛着と誇りを礎に、これからの清水町を築いていきます。

基本目標 1 誰もがやすらぎと生きがいを感じる「笑街健幸^{*}」のまちへ

健康づくりや予防に関する支援、福祉施策の充実とともに、誰もが生涯にわたって活躍し学びや文化活動を楽しめる環境づくりをすすめ、心身ともに健康で幸せを感じられるくらしの実現を支援します。

- 施策**
- 心と体の健康づくりの支援
 - 受診しやすい環境づくりの推進と予防体制の充実
 - すべての人の快適なくらしを支える体制の充実
 - 気軽に学び文化活動を楽しむ環境の充実



^{*}笑街健幸：街角に笑顔があふれ、住民がいつまでも健康で幸せにくらす様子を表現した造語。

基本目標 2 子どもの成長や学びを地域全体で支えるまちへ

安心して子どもを産み育てることができる環境を地域ぐるみでつくとともに、保育・教育体制の一層の充実により、子育て世代の定住を促し、子どもたちの可能性とまちへの愛着を高めます。

- 施策**
- 子どもが健やかに育つ環境の充実
 - 子どもの可能性を育む学校教育の推進



基本目標 3 豊かな自然環境と地域の活力が誇りを育むまちへ

柿田川をはじめとするかけがえのない自然環境の魅力を共有し守り続けるとともに、地域の宝や特長を活かした独自の産業振興や情報発信を通じて、まちの活力とまちへの誇りを高めます。

- 施策**
- 未来へ引き継ぐ自然環境の保全
 - 循環型社会形成への取組の推進
 - 地域の資源と特長を生かした産業の振興
 - 地域への愛着と関係人口拡大の推進



基本目標 4 持続可能で快適なくらしを支える都市基盤を備えるまちへ

公共交通機関の充実や道路整備によって町内外への利便性を高めるとともに、適切な土地利用の推進、公園や下水道など快適なくらしを支える施設の維持、整備をすすめ、「くらしやすさ」の基盤を強化します。

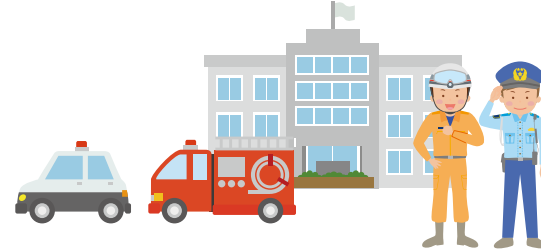
- 施策**
- 町内外への利便性を高める交通基盤の整備
 - やすらぎを感じる快適なくらし環境の整備
 - 地区の特長を生かし高める土地利用の推進
 - 快適なくらしを創出する下水対策の推進



基本目標 5 自助・共助・公助の連携で安全で安心してくらせるまちへ

「自助」「共助」「公助」のすべてのレベルで災害や犯罪に対する備えを強化し、安全で安心してくらせる環境づくりをすすめます。

- 施策**
- 災害に強いまちづくりの推進
 - 交通事故のないまちづくりの推進
 - 犯罪のないまちづくりの推進



基本目標 6 未来への責任あるまちへ

「協働」と「協創」、また様々な主体との「パートナーシップ」によって、効果的、効率的に施策に取り組んでいくとともに、限られた財源を有効に活用していくため、行財政改革をすすめます。

- 施策**
- 協働・連携によるまちづくりの推進
 - 情報戦略の推進
 - 行政改革の推進・行政経営の質の向上と効率化
 - 行政改革の推進・持続可能な財政の運営



～将来都市像の実現に向けて～ まちづくりへの取組方針

まちのみんなで取り組む―『協働・協創』

本町を、さらにくらしやすい未来を描くキャンバスにしているためには、みんなが意見を出し合い、まちづくりに反映させていくことが大切です。また、まちづくりの主人公として役割と責任を担い、行動していくことで、まちへの愛着や誇りも高まり、本町はずっと住み続けたいまちになります。

町やさまざまな主体がともに行動し「協働・協創」によるまちづくりをすすめていきます。

地域のみんなで取り組む―『地域連携』

面積8.81km²の本町では、くらしに必要なすべての機能をまかなうことはできません。しかし、県東部地区の中心に立地し、まわりの市町と一体的な生活圏を形成しているため、周辺地域との効果的、効率的な連携を保ちながら都市機能を充実させ、「くらしやすさ」を高めていくことが可能

です。そこで、地域間連携への参画をさらに推進し、周辺地域と一体となって地域力を高めていきます。

世界のみんなで取り組む―『SDGs』

わたしたちは、かけがえのない資源を守り生かしながら、未来世代を含めたすべての町民が「くらしやすさ」を享受し、自分らしい未来を描くことができるまちの実現をめざしています。それは「SDGs」の理念に通じ、「SDGs」が掲げる目標の多くがまちの将来像実現の指針と重なります。

そこで、基本計画の施策ごとに関連するゴールを示し、「SDGs」の視点を加えたまちづくりをすすめ、世界の様々な課題を解決する一助となるよう努めます。

◇SDGs:「SDGs(持続可能な開発目標)」は、2015年の国連サミットで採択された2030年を年限とする国際目標です。「誰一人取り残さない」持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットで構成されており、環境・社会・経済にまたがる多くの課題への、統合的な取組を求めています。

